

学校名	唐津市立北波多中学校
1 前年度 評価結果の概要	・今年度も基礎学力の定着を図りながら、学力の向上を目標に掲げ、指導法改善やICT機器の活用に向けた研究授業やTT授業等に取り組んできた。学習へ向かう姿勢も徐々に意欲的になってきており、学力の高まりとともに自己肯定感も高まりつつある。県学力状況調査において、1年生は2教科、2年生は4教科が県の正答率を上回った。しかし、思考力・判断力・表現力における観点別正答率においては、県平均を下回る教科も多く、今後の課題としてとらえている。 ・コロナウイルス感染症予防の観点から、様々な行事が中止あるいは縮小となったが、保護者や地域の協力、支援を受けていくつかの行事をすることができた。行事を通して達成感や成功体験を積ませることで、生徒の自己肯定感を育んでいる。しかし、行事についての事前準備に多くの時間を費やしていることも事実である。今後も業務改善や行事の精選など行いながら勤務時間の適正化を図る必要がある。
2 学校教育目標	自他を大切にし、互いに認め合い、共に高め合う生徒の育成
3 本年度の重点目標	①一人一人が大切にされる学習づくり ②自己指導能力を高める生活づくり ③互いのよさを認め合える仲間づくり

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師75%以上	・学期末にマイプランの成果と課題を明らかにし、学年末における成果指標の達成を目指す。	・			・		・	学力向上コーディネータ
	○授業への積極的取組	○学校評価アンケートで「積極的に取り組んでいる」と答えた生徒を75%以上にする。	・TTや少人数指導を積極的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びを実践し、よりきめ細かな授業を実践する。 ・研究指定を受けて、校内研を中心として教職員の授業力を高める。	・			・		・	学力向上コーディネータ
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○地域の人材や外部講師を活用した体験活動や講話などにより、心情面を育てる。保護者の肯定的な意見80%を目指す。	・「いきいき学ぶからつっ子推進事業」と関連させ、地域人材の活用やキャリア講話を各学年の実態に応じて行い、社会性や倫理観を培う。 ・平和集会とPTA活動の体験活動(ピースナイトハイク等)を連携させ、生命の大切さや他者への思いやりを育てる。	・			・		・	教頭
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校評価アンケートで「学校はいじめのない楽しい学校づくりに努めている」と回答した保護者を80%以上にする。	・いじめアンケート、生活アンケート、G-Uを実施し生徒の変化を捉えるとともに、年2回教育相談期間を設け生徒一人一人の声を聴く。 ・いじめ問題への対応を全職員が共通理解し、確実な情報伝達を行う。 ・いじめのない学校づくりへの取組を保護者や地域に発信し、保護者や地域にいじめに対する関心を高めてもらう。	・			・		・	生徒指導
	○生徒のボランティア精神の育成	○生徒のボランティア精神の育成のため、校内外の行事・清掃美化活動・ボランティア活動を全生徒1度は経験させる。	・各種団体と連携するとともに、生徒会(ボランティアBANK)が中心となり企画・運営を行い、生徒の自主的な活動にする。 ・生徒の帰郷りや地域の人々の感謝の声を取り上げ、生徒の活動意欲や達成感につなげる。 ・メディアの活用を行いボランティア意識の高揚を図る。	・			・		・	生徒会 (ボランティア)
	●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○スマホ、ゲーム保有者の使用時間2時間以内/日の割合を70%以上とする。(月～金)	・PTA総会や保護者懇談会を活用し、スマホの危険性や功罪について講話を行い、保護者にSNSの使用のさせ方について考えてもらう。	・			・		・
○体力の向上		○新体力テストにおいて、合計得点が全国平均を上回る。	・めあての設置、個人ノートの活用、活動の場の工夫等により、自ら進んで活動する授業の確立を図り、生徒の体力向上を支援する。 ・部活動加入を勧めるとともに、部活動を計画的に実施したり、体力増進のために活動内容を工夫したりする。	・			・		・	体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(45H)を遵守する。	・毎月の時間外勤務をチェックし、個人面談を行い超過の原因を明らかにし上限(45H)の遵守に努める。	・			・		・	教頭
	○休養日の確保	○毎週水曜日及び土曜日または日曜日のいずれかを100%休養日とする。(試合が土日開催の場合は、翌日以降に必ず休養する)	・毎月の業務記録表を点検し休養日取得状況を把握し、確実な取得を実践する。	・			・		・	教頭
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域連携	○保護者(PTA)や地域各団体との連携・協力	○保護者や地域の人々の来校者を50人以上にする。	・学校のホームページと保護者連絡メールを有効に活用し、学校の行事を早く知らせ、参加率を高める。	・			・		・	
○情報発信	○学校行事や生徒の様子の情報提供	○学校評価アンケートで「学校の情報公開は進んでいる」と回答した保護者を90%以上にする。	・学校行事やPTA行事においてメディアを活用し、地域に生徒の頑張りをアピールし開かれた学校を進めていく。また、学校だよりも有効活用する。	・			・		・	教頭
◎志を高める教育	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒の割合を80%以上にする。	・キャリア講話や先輩に学ぶ会等で外部人材を活用し充実を図るとで、様々な視点から生き方を学ばせる。	・			・		・	教頭

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------